

現地における台風災害の様相

土井健治郎・江藤博六

宮崎県農業試験場

Doi, K. & Ero, H. States of the Rice Plat Injured by the Typhoon

1954年宮崎を襲つた8月17~18日の台風5号, 9月7~8日の13号, 9月13日の12号等は大雨を伴つて, 農作物にも大きな被害を与えたが, 水稻の被害について現地調査を試みたので報告する。

I. 冠水による被害 延岡市本小路に於て, 穂孕期の9月7~8日に1昼夜, 出穂始の9月13日に1昼夜の2回冠水と8月18日1昼夜, 9月7~8日に30時間, 更に9月13日に30時間前後の3回冠水の場合の被害を調査した。

品種は瑞豊, 圃場は相隣る水田で, 2回区の方が約1尺位高所にある外は耕種条件等同一であり, いづれの場合も五ヶ瀬川の濁流で水温は冷たい方であつた。

両者共穂が止葉々鞘内に止まつて抽出せずに出すくみの状態の物が多かつたが3回区の方が甚だしく, また, 上位節よりの異常分枝による2段穂や遅穂率も3回区が甚しかつた。また内外穎の發育が停止して, 形跡程度の小型のままの物が3回区に見られ, 不稔歩合や屑米歩合, 青米歩合, 乳白米歩合等も3回区の方が多く, 正常米歩合, 精米千粒重及び精米の長さ, 巾, 厚さ共2回区がまさり, 従つて1株当玄米重も2回区の方が多くなつていた。

II. 風水害による被害 延岡市夏田に於ては昨年中の台風により風水害を受けたが, 前作麦の時に耕地整理をして, 従来溝であつた所を水田となした溝跡地と, 同一圃場内で溝跡でない普通の部分とに生育した水稻の被害は, 品種はいづれも瑞豊で耕種条件等も同一であつたに拘らず, 遅穂率は溝跡地が多く, 異常分枝による2段穂, 不稔歩合, 青米歩合, 屑米歩合共に溝跡地が多く, 精米千粒重, 精米の長さ, 巾, 厚さ共溝跡地が劣り, 従つて1株当り玄米重は溝跡地より正常地がまさつていた。

台風前, 溝跡地は正常地に比して多少出来すぎの感があつたが, 出穂期は正常地が台風12号通過翌日, 溝跡地は, それより1~2日遅れた。

III. 砂流入による被害 延岡市牧に於て台風13号の為に堤防決壊し, 1~1.5尺の川砂が流入した区と5~6寸の川砂流入少区との被害は, いづれも農林18号, 出穂期の被害で穂の出すくみを見たが, 災害のひどかつた所では殊に穂首の抽出が悪く, 異常発根も上位節に迄及び莖葉は中途より折れて欠損したのが見られた。不稔歩合, 屑米歩合, 乳白米歩合等は流入甚区が多く, 精米千粒重や精米の巾及び厚さは, 流入少区の方がまさり, 1株当玄米重も流入少区の方がまさつていた。

IV. 冠水常習による被害 宮崎郡広瀬村大炊田は低湿地の為, 水稻作期間中に9回の冠水を見た。同一圃場に於て前年の水稻の刈取株が翌夏に芽をふいたのを移植したもの(古株という)と通常の苗を移植した通常株との被害は, 品種は瑞豊で耕種条件等も同一であつたのに, 上位節よりの異常分枝の発生歩合や稈長, 穂長及び穂数共に古株がまさり, 不稔率も古株が多い。不稔歩合, 屑米歩合, 青米歩合等も古株区が少なかつたが, 乳白米歩合は古株の方が多く, 精米千粒重や精米の巾, 厚さは古株がまさり, 1株当玄米重も, 古株の方がいちぢるしくまさつていた。

1954年は数次の相次ぐ台風により災害が重なり被害の状況もまたかなり複雑で, 風害, 浸冠水害, 土砂埋没による害等が見られた。ここでは現地を廻つた中で加害の軽重や回数, 或は耕種条件の差が被害に現われた影響等を拾つて報告したが, 調査が極めて大雑把であつた為, 所期の目的を達し得なかつた。せめて台風被害様相の一例にもなれば幸である。